

6/29 千歳市空港開港 100 年記念酒を発売
《千歳》と《百》が紡いだ縁



本年 10 月 22 日に迎える千歳市空港開港 100 年を記念し、日本清酒㈱が「千歳鶴 にごり酒 百宝」の記念酒を 7 月 22 日から発売します。同社の代表ブランド「千歳鶴」と「千歳市」の《千歳》、そして商品名の「百宝」と「開港百年」の《百》が織りなす縁から生まれた限定デザイン。まろやかで甘酸っぱい、ミルキーな口当たりが特長の日本酒です。同社代表取締役社長の佐藤 友治さんは「夏らしく冷やして飲むのはもちろん、炭酸水で割る《酒ハイ》にするのもおすすめ。普段日本酒を飲まない方々にも楽しんでもらえたら」と話します。本商品は市内量販店のほか、道の駅サーモンパーク千歳などで販売されます。



6/23 千歳から世界へ！北海道所属選手初の快挙
ボクシング中島選手 アジア《銅》



昨年の「全日本 UJ ボクシング王座決定戦」を制した日本王者・中島 永久選手が、日本代表としてウズベキスタンで開催された「AB U15 & U17 Championships 2026 (5/2～5/15)」の 48kg 級に出場し、見事銅メダルを獲得しました。北海道所属選手としては初の快挙です。世界の舞台でも千歳ボクシングジムで培ってきた実力を遺憾なく発揮した中島選手。外国人選手特有の重いパンチやフィジカルの強さに圧倒されつつも、試合を重ねるごとに自信を深め、「初戦で相手のパンチが見えてたのでいけると思った。反射速度に自信がついた」と確かな手応えを語ります。また、日の丸を背負う覚悟について「これまで戦ってきた国内のライバルたちの思いの重さを感じた」と振り返り、次の目標は「インターハイでの圧倒的な優勝」です。（現在は札幌工業高等学校ボクシング部所属）

6/5
6/14 発見 50 周年を記念し特別公開
動物形土製品 ビビちゃん



市内で出土した、重要文化財「動物形土製品」（愛称ビビちゃん）。千歳市埋蔵文化財センターが発見 50 周年を記念し、ビビちゃんを特別公開しました。ビビちゃんは、縄文時代晩期に作られた表面の美しい文様が特徴の土製品で、新千歳空港の整備工事に伴う発掘調査により、昭和 51 年（1976 年）、現在の滑走路付近の美々 4 遺跡から出土しました。ビビちゃんが何を模したものかは謎に包まれており、見る角度によってアザラシや亀、水鳥などさまざまな動物に見えてきます。公開は 10 日間にわたって行われ、来場者は延べ 889 人。同センターの茅原 明日香 主任は、「ビビちゃんをきっかけに、千歳の埋蔵文化財に興味を持っていただけたら」と話しています。

6/21 レバンガ北海道バスケットボールクリニック
プロの技術に挑戦！



千歳レバンガの会がダイナックスアリーナでバスケットボールクリニックを開催し、市内中学校のバスケット部員約 100 人が参加しました。講師にはレバンガ北海道で活躍する内藤 耀悠 選手らが登場。実践で活かせる緩急のあるドリブル技術などを中心に熱心な指導が行われました。最後のミニゲームでは、コートサイドの生徒たちから応援歌が飛び出すなど、会場が一体となって白熱。内藤選手は「今日学んだことを整理して、次のステップへ成長してほしい」とエールを送り、プロの技を体感した生徒たちは、「手加減はしつつも周りがすべて見えていた。同じ人間とは思えない」と目を輝かせていました。

6/23 千歳わんぱく相撲大会にゲスト参加
湊川部屋が市役所を訪問



千歳わんぱく相撲大会（裏表紙を参照）を前に、湊川部屋が開催報告のため、主催者の NPO 法人ちとせ & BEYOND とともに市役所を訪れました。昨年 6 月以来、1 年ぶりに市役所を訪れた湊川親方（元大関貴景勝：写真左から 3 人目）は、「ポロシャツ一枚で飛行機を降りて、びっくりしました」と、まだ寒さの残る北海道の気候に驚いた様子。大会に先立ち、9 人の力士とともにいった千歳宿舎では、千歳神社の境内に設けられた土俵を使用し、3 日間にわたって稽古を行いました。合宿は 7 月の名古屋場所を見据えたもので、地方で行う稽古合宿は湊川部屋の発足以来初。合宿終了後の 6 月 27 日には、千歳わんぱく相撲大会にゲスト参加し、ちびっ子力士たちと交流しました。同法人の二階堂 真弥 理事は、「子どもたちには、一流の力士を間近で見て触れ合うことで真剣勝負やスポーツマンシップ、伝統を重んじる考えなどを養ってもらえたら」と話しています。

人のうごき

《総人口》
97,167 人（+9）
男性 49,516 人（-36）
女性 47,651 人（+45）
《世帯》53,458 世帯（+21）
（ ）内は、前月との比較です。

7.1
現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月 10 日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入しているしていないを問いません。

広報広聴課 広報係
☎ (24) 0104 FAX (22) 8851

手づくりの着陸場から新千歳空港へ 開港 100 年の歴史を振り返る

ちとせ空港 百年物語

Vol. 39 伸び続ける旅客数

国内路線の拡大と LCC 需要の高まり

国内航空に目を向けると、千歳空港時代から就航している航空会社である日本航空、全日本空輸、に日本エアシステムの 3 社に加え、新千歳空港の開港以降は新規就航が北海道国際航空（現 AIR DO）、スカイマークエアラインズ（現 スカイマーク）と続き、新規路線も次々に開設されてきました。

平成 24 年 3 月には、格

安航空会社（LCC）のピーチ・アビエーションが就航。ピーチは国内で初の LCC で、新千歳空港への就航も LCC では初のことでした。ピーチの就航を皮切りに、同年ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパンと、LCC が相次いで参入し、新千歳空港と首都圏、関西圏、中京圏を結ぶ格安路線が整備されました。

LCC プームの後押しや国際線の好調もあり、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の影響で一時的に落ち込んだ新千歳空港の乗降客数は再び伸びを見せ、国内線・国際線の合計旅客数は、平成 26 年から令和元年までの 6 年連続で過去最高を更新しています。

国内線ターミナルに駐機する日本航空と全日本空輸の B747